

SORA

web magazine 2019.oct. vol.125

Cuba

Travel

MAP
CLICK!

初レポート! キューバで潜ってきたよ!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

正式名称「キューバ共和国 (Republic of Cuba)」は、カリブ海に浮かぶラテンアメリカの国。スペイン植民地時代やキューバ革命など、歴史的にも様々な出来事を経験し、観光地としても人気の国。魅力の一つに、ノスタルジックな風景の中、昔輸入された70年代のアメリカ車やソ連製の車が今も現役で走る。タイムトリップしたようなどこか懐かしい景色が連続する。今回は、自然が美しいパラデロでのダイビングにも行ってきた。興味があってもなかなか情報のないキューバの海を見て!

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2019
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



知らない国へ

メキシコシティを経由してキューバに到着したのは、夜の11時。税関で、見慣れない水中カメラについて質問を受けたけど、迎えに来てくれているキューバ人ガイドさん（日本語を上手に話す）のお陰で、割とすんなりと通過することができた。その後、お金を換金する。キューバ滞在中は、カードがほとんど使えないということ（そして、今回一緒に来たメンバーがお酒好きということで）10万円ほどをキューバの通貨、クックに換金した。結果、滞在したリゾートはほとんどがオールインクルーシブ（食べ物やアルコールを含むすべての飲み物が含まれている）だったので、それほどクックで支払うことはなかった。あまり買い物をしていないなら5万円程度で良いかもしれない。空港から、ハバナに位置するホテル、ハバナリブレへ。すぐに就寝して、翌朝目を覚まし、高層の窓からハバナ市街を見下ろす。朝日がとても美しく、まだ知らない街を照らし始める。旅が始まるのだと、ワクワク感が堪らない。朝食を取り、もう明るくなった外に飛び出す。前の大きな道には、たくさんのクラシックカーが行き来する。夢中になって撮影を開始した。人によっては、「思っていたほど、クラシックカーの数は多くない」という人もいるが、私は想像以上にクラシックカーが走っていたので、それはもう興奮していた。



HABANA LIBRE (ハバナリブレ)

新市街の、外国人で賑わう界隈に建つ印象的な外観を持つホテル。4つ星ホテルで、ハバナの中心地にあるランパに差し掛かった場所にある。25階建てで、客室の総数は572室の大型ホテル。客室は広く、また高層からの眺めは抜群。大きな吹き抜けのロビーと3つのレストラン（クレオール、ポルネシアン、多国籍料理）、2階のメインのレストランの朝食は、いろんな料理が並び美味しかった。他にもバー、サルサカフェ、ナイトクラブ、ジム、サンルーム付きの大きなプール、スナックバーなどがある。旧市街地からも徒歩30分圏内。



Marinero



パラシオ・デ・バジェ



都市歴史地区は、キューバの世界遺産の一つであるシエンフエゴス

観光初日に向かったのは、送迎バスで4時間ほどのシエンフエゴス。昼食は、白い瀟洒な建物内にあるMarineroというシーフードレストランで食べる。ビュッフェ方式で、ビールなどの飲み物が付く。店内は生バンドがサルサを奏でていた。そして、世界遺産の街・シエンフエゴスに移動。バスから眺める大通りの景色から、ハバナとはまた違った町の造りにすぐに気がつく。シエンフエゴスは、フランスの移民によって造られた街で、フランスの香り漂う街並みとなっている。特に、市民の憩いの場でもあるホセ・マルティ広場の周りはコロニアルな建物が集まっている。ホセ・マルティ記念博物館、大聖堂、トマス・テリシアターなど歴史的建造物を効率良く見ることができる。ホセ・マルティ広場へのメインストリートは、若者ファッションからスーパーマーケットまで、さまざまな店が連なる歩行者専用道路。少し脇道にそれると皮製品など手作り雑貨の屋台が並ぶ。また、ダウンタウンから抜けてゴルダ岬に「パラシオ・デ・バジェ」と呼ばれる建物があり、現在はレストランになっている。この邸宅は1913年にオーストリア人により、当時の費用で256万ドルかけて造られたという。約4年間をかけて完成。ムーア様式をベースに、アラブやイタリア、スペイン等、世界各国の建築様式のエッセンスが融合し、独特な雰囲気がある。





ラテン溢れるリゾートホテルで

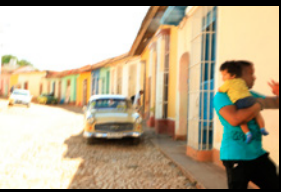
見所はたくさんだが、少し急ぎ足でトリニダートへ移動。所要時間は、約1時間40分。着いたリゾートは、HOTEL CLUB ANCON。到着後、まず驚いたのは、レセプションでショーダンサーが踊りで迎えてくれたこと。夜のステージに出演するダンサーたちで、この演出で確かに見に行こうと思った。ただ、踊り終わるとレセプションのシートで休憩するので、ゲストの席が……（笑）。建物は、大きく2つに分かれ、今回は別館の方へ。室内はそれほど広くないが、明るい色合いでまとまっている。メインのレストランは、ビュッフェ方式で、様々な料理が並ぶ。個人的には、生ハムの食べ放題が楽しかった（笑）。大きなプールの近くにステージがあり、夜の9時半からダンサーや歌手によるステージが始まる。その脇のBarは24時間オープンで、キューバならではのモヒートやキューバリブレなどが用意されている。美しい海岸線に位置するので、静かにリゾート感を楽しむことができる。

Cuba Travel





Travel Cuba



石畳の小路が特徴のトリニダート

翌日は朝から、トリニダートの町を観光。トリニダートは1514年にディエゴ・デ・ベラスケスによって築かれて、500年の歴史を持つ。コロニアル都市の特徴であるカラフルな色合いの家々と直線で区割りされた街が続く。見どころはやはり旧市街。石畳の小路を囲んで立ち並ぶ小さなコロニアル建築が特徴的だ。中心はマヨール広場で、かつてはサトウキビの取引や奴隷売買が行われた場所。そこを中心に回れば、歩いて1時間もいないほどの小さな街。ガイドさんから自由時間をもらい、少人数で散歩。パステルカラーの街並みにオールドクラシックカーがある景色や人々の生活を撮影してみる。そしてガイドさんと、元々は1984年に建てられたサンフランシスコ修道院だった革命博物館や、マヨール広場に面しているクリーム色の美しい、内部に精緻な木彫が施された祭壇があり、聖母像が安置されているサンティンマ教会を訪れる。また、観光客で賑わうお店で、トリニダート名物のカクテル「カンチャンチャラ」に舌鼓。ラム酒にはちみつとレモンジュースを入れたもので、映画「ブエナビスタソシアルクラブ」での印象的な曲・chan chan（チャンチャン）を聞きながら、ちょっとした焼き物の器で細い木の棒でかきまぜながら飲んだ。



チェ・ゲバラを知るサンタクララへの旅

送迎バスで約2時間移動して、サンタクララへ。途中、「El Palmar」というビュッフェ方式のレストランへ。キューバの典型的なキューバ料理、アロス・コン・フリホーレス・ネグロスなどを食べる。白飯に黒いんげん豆の煮込みをかけたシンプルな料理。他に、豚肉のソテーをシェフに焼いてもらったけど、もう少し加熱が必要だったみたいで、食さなかった（笑）。その後、サンタ・クララの街が一望できる絶好のビューポイント、カピーロの丘へ。みんなで競うように丘を駆け上がっていく。カピーロの丘の頂上にはキューバ国旗と7月26日運動の旗が掲げられている。そして、街中のチェ・ゲバラ像、装甲列車襲撃現場とモニュメントを巡る。サンタクララは、革命家チェ・ゲバラによって解放された街として有名。最後は、サンタ・クララの広場にあるチェ・ゲバラの霊廟へ。高さ6mを超えるチェ・ゲバラの銅像の下にはゲバラの遺骨が、同地で戦死した同士たちとともに安置されている。また、安置所の横は展示室になっており、ゲバラにまつわる品々を観覧することができる。チェ・ゲバラファンには垂涎の街である。



キューバ、バラデロでのダイビング！

今回は、キューバの中でもバラデロという街に滞在してダイビングを行った。サンタクララから4時間ほどの道のりだった。バラデロはキューバ有数の観光地であり、リゾートタウン。ここには、ダイビングセンターが2軒あり、今回お世話になったのは、現地で20年の歴史がある「MARINAS GAVIOTA CUBA」。キューバ人ガイドのジェイミーの素敵な笑顔に迎え入れられ、2日間のダイビングライフを楽しんだ。潜り終えて知ったことだが、バラデロは、キューバの右上に位置する。実は、そこはカリブ海ではなく大西洋だったということ……。カリブ海でのダイビングと思っていたが、大西洋だった。それを知った時、また経験が増えたラッキーな思いとなった（笑）。

Travel
Cuba



大西洋でのダイビング!



Cayo Piedre

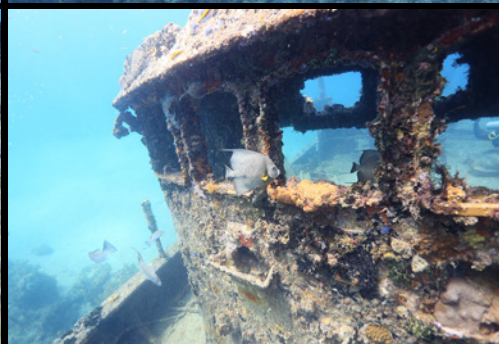
ダイビングセンターから専用のスピードボートで、30分ほど走らせた場所に位置する。白い灯台のある小島の周囲で潜るポイント。ここは初級者からもエントリーできるポイントで、ドロップオフなどのない平らな地形を潜っていく。白いリーフと砂地が相まみれ、大きな運動場のような空間となっている。リーフの上には、大西洋やカリブ海独特の細長いサンゴが連立し、太平洋やインド洋に親しんだ私たち日本人ダイバーには、これまでとは違った趣の海を見せてくれる。簡単に言えば、「海の中まで外国旅行にきた気分になる」ということ。このポイントは、それほどお魚が多くなかったが、それでも辺りを行き来するお魚はカリブ海の固有種で「初めまして」と挨拶することが多い。約45分、太陽の光が燦々と差し込む癒しの空間で、キューバの初ダイブを楽しんだ。



Travel Cuba

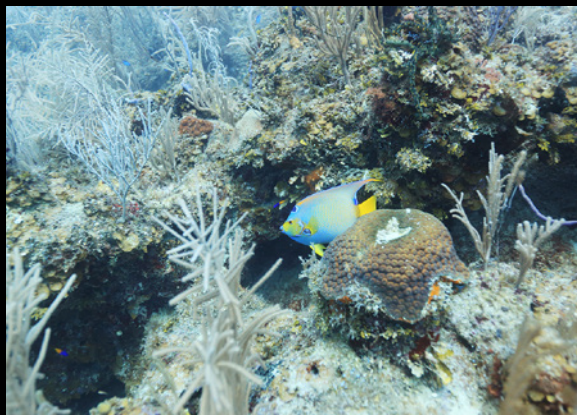
EL Patico

2本目のダイビングは、約20分移動して、沈船のポイントへ。キューバ人ガイドのジェイミーは、「今度はもっと fish life があるよ」と教えてくれた。それは楽しみだと思っていると、「さ! 次のダイビングへ行こう!」と言ってくる。まだ水面休憩時間は、30分なんだけど、という、「そう、でも次のポイントは最大水深が11mだから」と言ってダイコンでダイビングスケジュールを確認し、「水深12mのところ」にいても、70分は無減圧潜水内だよ。確かに1本目のダイビングも浅かったし、もう行くだねと思い用意して、何だかんだで、約40分後くらいにエントリー。潜降して砂地に到着。周囲には藻場もある。その先には、大きな影が見える。全長25mの船が沈んでいる。サイズ的には、大きくないが、ちゃんと漁礁の役割を果たしている。クイーンエンジェルフィッシュやグレイエンジェルフィッシュなど、大西洋&カリブ海のアイドル的なお魚が沈船の上や船体の中で泳いでいる。ダイバーが多い時は、少し離れた場所に集まっていた群れも、また沈船を覆うように戻って来る。「これがキューバの海だ!」というほど魅力溢れるポイントではないかもしれないが、少しずつ少しずつカリブの宝石のようなお魚に出会うことができた。



La Corona (The Crown)

港からポートで20分ほどのポイントで、コーラルリーフが広がるダイビングエリア。最大水深20mほどの海底は、細長く背の低いリーフが連なり、表面にはゴルゴニアンや細長いサンゴが群生している。視点を低くしてみると、まるで妖精の住む森のようなファンタジックな世界が広がっている。カリブならではの不思議な世界。「数日前までは、透明度がもっと良かったんだよ!」とジェイミーが教えてくれたけど、透明度は、気にならないぐらい良かったけれど、もう少しお魚が見たかった。クーンエンジェルフィッシュをちらほら見かけ、サンゴと絡めたり、他の大西洋&カリブのお魚たちと絡めたり。他にガイドさんが、ロブスターやミノカサゴを見せてくれる。ミノカサゴは、少し前から生息し始めた外来種で、駆除の対象になっているから悲しい運命。約束の45分ではなく、約1時間ほど海中散歩を楽しんでダイビングを終えた。



EL Remolcador (tagboat)

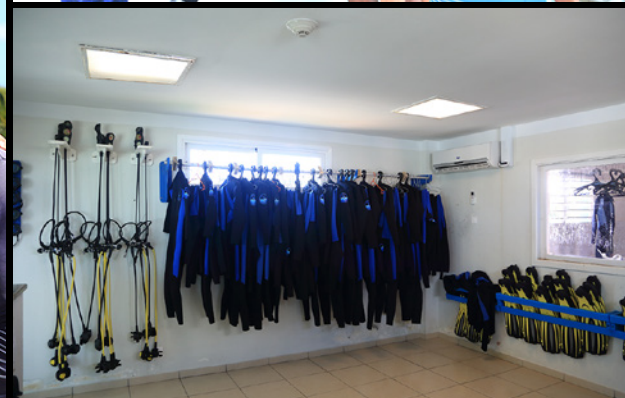
2本目のポイントは、昨日潜った灯台からほど近いポイント、EL Remolcador (tagboat) へ。水深19mの白い砂地に鎮座する沈船のポイントで、立派な漁礁となっている。船の周囲には、ヒメジの仲間を始め、群れのお魚を見ることができる。沈船の中に入って船内を楽しむことができるが、それほど大きくはないので、1グループが入ると視界がとても悪くなる。周囲の砂地では、大きなエイを発見。また面白かったのが、砂地にまるでレールのような轍の跡がある。よく見ると大きな貝がたくさん歩いていて、その形跡だった。不思議なサインだと思い、撮影。沈船の周囲にも見所はたくさんある。幾つもの戦車やジープが沈められている。数年前のハリケーンで、いくつかは反転しているジープなどもあった。バラデロでのダイビングでは、いくつかの沈船や戦車のポイントなどがあるが、それは全てダイビングポイントとして沈められたものである。平均水深が深くなったので、しっかりと安全停止を行ってダイビングを終えた。





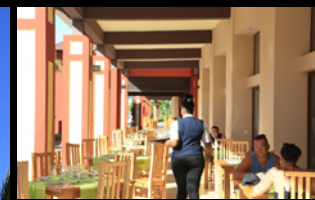
お世話になったダイビングセンター <MARINAS GAVIOTA CUBA>

パラデロの2軒あるうちのダイビングセンターの1つ。20年の経験があり、現在のハーバーに店舗を移動して、4年が経過した。大きなダイビング専用のポートを3隻所有。今回の滞在中は、いつも世界中からのたくさんのゲストで賑わっていた。20箇所ほどポイントがあり、およそ30分ほどの道のり。大きなダイビングポートで、トイレシャワーもあり、またソフトドリンクやミネラルウォーターも用意してある。今回、担当してくれたキューバ人ガイドのジェイミーは、男前で実直な感じでとても好感が持てた。他に、ポートキャプテンやアシスタントもノリが良く、ダイビングを終えた帰路、急にポート上で、みんなを巻き込んで踊りだす。それがどうにも陽気なカリブな様子で、ずっと船酔いで倒れていた（船は全然揺れてない）アジアの女性も笑顔で踊り出したので、これまた素敵だと思った。曜日によってポイントのレベルが決められていて、火、木、土曜日は、ビギナーダイバーから楽しめるイージーなポイントが選択される。月、水、金は、比較的アドバンスのポイントが選択される。1グループは6、7名ほどで、その時のゲストの状況によって変化する。潜水時間は、45分と言われていたが、約1時間潜っていた。また、レンタル器材が豊富にあり、BCD、レギュ、フィン、ウェットスーツなどがレンタル可能だった。取材時期の10月は、水温が27、8℃ほど。レンタルの3mmのウェットスーツでもちょうど良かった。毎朝、各リゾートに送迎車がやってくる。8時くらいの集合で、各リゾートに戻るの、午後の2時半〜3時くらいになる。1日2ダイブでランチは含まれていない。希望があれば、ダイビング後にポートでビールが購入できる。





Travel
Cuba



Grand Memories Varadero Resort グランドメモリーズバラデロリゾート

ヒカコス半島先端部近くに位置するバラデロでも最大級のリゾート。緑溢れる広い敷地には、宿泊棟やレストラン、屋外プールが点在する。リゾート内の移動は徒歩でも大丈夫だが、荷物がある場合は、電動カートが必要。3階建ての宿泊棟で客室数は、960室。客室はタイプにより異なるが、ダークウッドの家具とカラーコーディネートされたファブリックでまとめられている。テレビ、エアコン、バスタブ、シャワー、トイレ、ミニバー、コーヒー／紅茶メーカーなどが完備。wifiも部屋で繋がる（1クックで1時間使用可能のプリペイドカードをレセプションで購入する）。施設内での飲食は部屋料金に含まれているオールインクルーシブで、ホテル内にはビュッフェ2店舗、アラカルトのレストラン3店舗（カリビアン料理専門、イタリア料理専門、多国籍料理専門）。※事前の予約が必要だが、今回は全て予約済みで利用することが出来なかった……。4軒のバー／ラウンジ、そして2軒のプールサイドバーがある。敷地内にあるシアターでは、サーカスやマジックショーが毎日9時半から行われている。また、美しいビーチが隣接する立地条件の良さから、ビーチ目当てに宿泊する観光客も多い。

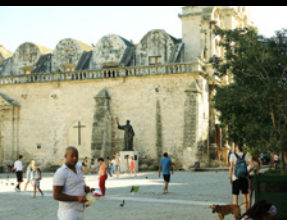


バクナヤグア橋



Travel Cuba

バクナヤグア橋と ハバナ旧市街



2日間のダイビングを終えて、一路ハバナへ。3時間ほどの移動で、途中にバクナヤグア橋に立ち寄る。「バクナヤグア橋」は、ユムリ溪谷にかかる全長313mのキューバ最長の橋。ユムリ川を見下ろす景勝地で、何よりも、ここで売っているパイナップルを器にしたハバナクラブの7年物で作られるピニャコラダがとても美味しい！ またお土産やさんも並ぶ（笑）！ そして、再びハバナへ。まずモロ要塞を見学。この入り口付近に葉巻ショップがあり、男性陣はお買い物。日本より4分の1ほどの値段で葉巻が購入できるとみなさんたくさん購入していた。女性陣は、ちゃんとモロ要塞見学。ランチは、ハバナの旧市街地にある Donde Lis Restaurante & Bar へ。ここでロブスター料理に舌鼓。とても美味しかった！ そのお店の周辺の雰囲気がとても良く、とてもフォトジェニックな街並みだった。その後、ハバナクラブのラム博物館、カテドラル広場、作家ヘミングウェイ所縁のホテル・アンボス・ムンドスや美味しいモヒートやダイキリを体験する。ハバナの旧市街はどこも絵になり、海中と同じように夢中でいろんなものにレンズを向けた。



最終日、空港に向かうまでは、 オールドクラシックカーで市内観光

最終日、観光への集合時間が9時だったので、早起きしてホテルの周りを散歩してみた。目的があったわけではないが、せっかくなので街をもっと見たかった。もちろん撮影もした。そして、最終のお楽しみは、オールドクラシックカーで市内観光。ピンク色の派手なオールドクラシックカーはオープンカーで、解放感&リゾート感が抜群。すれ違うオールドクラシックカーとクラクションを鳴らし合いながら進んで行く。ドライバーに、「この車はどうしたの?」と聞くと、「親父から譲り受けたものだ」と。そして、「最近、ピンクが人気だから、塗り替えた!!」と笑顔で教えてくれた。街中を走るオールドクラシックカーを見ると、なるほどピンクが多い……。革命広場、素晴らしい森林、マレコン通りなどを颯爽と走り抜け、すべての工程が終わった。最後の盛り上がりとしては本当に素敵な体験となった。



Cuba Travel



キューバ最後の夜は、 Hotel Nacional de Cuba

Hotel Nacional de Cuba (ナショナル デ キューバ)は、キューバらしいホテルの代表格。1930年創業でベダード (Vedado) 地区にある国営ホテルで、建物自体が国の記念建造物に指定される格式高いホテル。宮殿のような外観は一際目立ち、ロビーはまるで古き良き時代にタイムスリップしたかのようなクラシックな雰囲気。アラブ風アーチにアンダルシア様式が取り入れられている。客室は洗めのトーンで統一されている。コッポラやスピルバーグ、マドンナなど海外セレブや著名人が宿泊したことで知られ、館内のバーには宿泊したことのある著名人の写真等が飾られている。メイン・ダイニングは、1950年代のレトロな雰囲気があり、カジュアルフォーマルで食事を楽しみたい。中庭では、ハバナ湾を見下ろし、カフェなどを楽しみながら、ゆったりとすることができる。